

美術科研究実践授業

下伊那大会研究テーマ

思いつながる広がる私の造形ネットワーク

～自分らしさを楽しむ授業へ～

美術科研究テーマ

自分のあらわしたい思いを明確にしながら、友と伝え合う中で、表現力を伸ばす指導のあり方

日時 令和2年11月13日 金曜日 3校時

題材名 私のかたち・いろ 広がれ！

会場 松川中学校 美術室

学級 松川中学校 3年4組 男子 14名 女子 15名 計 29名

授業者 水野 恭子 教諭 (松川中学校)

指導者 上條 雪絵 先生 (青木村立青木中学校教頭)

1、題材設定の理由（題材に関わる子どもの実態）

本年度の3年生は、1年次から「思い」をあらわす題材を経験してきており、形のないものをあらわすことや、自分らしい表現を工夫する楽しさを感じることができる生徒たちである。

しかし、依然として絵画分野、特に絵の具を使うことへの抵抗感が強く残っており、表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。そんな生徒たちが、絵の具のよさを感じ、失敗を恐れず色を思いきり楽しめる授業ができないものか課題を感じてきた。

そこで、紙より堅牢な板を支持体にするすることで、失敗しても何度も色を重ねられるようにして、色を使うことへの抵抗感を少なくし、思い切った表現ができるようにと考えた。また、形については彫刻刀で線を彫って表現することによって、線だけにとどまらず、面を意識することができるため、形への意識が高まる良さも期待できる。以上のように支持体を板にするすることで、自分のあらわしたい「思い」をより自由に追求できると考えた。

今回は、中学3年生ということで、自分をテーマにして今の自分から未来の目指す自分像へ思いが広がり、制作をしながらさらにこれからの自分についての期待感を膨らめてほしいと願い、本題材を設定した。

2、題材の目標と評価規準

(1) 題材名 私のかたち・いろ 広がれ！

(2) 題材の目標

今の自分の心の中を見つめ、なりたい未来の自分を思いながら生み出した主題を基に、彫り方を工夫したり、凹部と凸部の配色や全体のバランスなどを考えたりしながらローラー等で着色して、一枚の板上に自分の「思い」を表す。

(3) 題材の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①形や色彩などの性質、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを理解している。知 ②彫刻刀を使った彫り方やローラー等の使い方などを身につけ、表現の意図に応じて工夫し、制作の順序や表現の効果などを考えながら表している。技	③表したいイメージなどを基に主題を生み出し、凹部の深さや太さ、凸部の配色やローラー等による着色の仕方、凹部と凸部とのバランスなど全体の構成を考えている。発 ④造形的な良さを感じ取り、作者の心情や表現の意図、創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。鑑	⑤創造活動の喜びを味わい、凹部の彫り方やローラー等による凸部の着色など、表現の意図に応じて表現方法を工夫しながら取り組もうとしている。態表

3、展開の概要（全12時間）

	学習内容	活動内容	時
1	出会い	① 自分の今の気持ちや性格から、今の自分のかたちを考え抽象的な形で表現する。 ・ 示範作品を見て、思いを明確にする。 ② 全体鑑賞の場を設け、お互いの作品のよさを見合う。 ③ 今の自分のかたちからスタートして、未来に向けてなりたい自分の姿をイメージしながら変化し広がっていく形を考える。 ・ 示範作品から、やり方や思いを明確にする。 ④ 完成したスケッチを松中スタンダードで鑑賞しあい、よさを見つけたり、アドバイスをし合ったりし、自分の制作に生かす。	2
2	広がり・深まり	① 完成したスケッチを彫りであらわすことを伝え、完成までの手順について知る。（示範作品や動画を視聴して理解する） ② 彫りの特徴や技法について学び、実際に彫る練習をしながら、自分の思いに合った彫りを模索する。 ③ どの彫りであらわすかイメージしながら、ベニヤ板に下描きをする。最初に描いたスケッチにとらわれず、自分の思いをあらわす。 ④ 思いがあらわせるように工夫しながら、彫り進める。	5
		⑤ 色の効果を考え着色計画を立てた後、彫った凹部を着色する。示範作品を見ながら、どのような色にするかイメージしながら色をぬる。 ⑥ 彫っていない面をローラーで着色する。「思い」が伝わるようにローラーでの着色を工夫してあらわす。【本時】 気に入らないところはもう一度彫って色をぬり直す。	4
3	振り返り	完成作品を「思い」と表現の関連に着目しながら鑑賞する。	1

4、本時案

(1) 主眼

なりたい未来の自分のかたちを彫り、凹部に着色した生徒たちが、凸部をローラーで着色する場面で、自分でローラーの使い方を試したり、友だちの表現を見たりすることを通して、自分の「思い」が表現できるように工夫して着色することができる。

(2) 本時の位置 12時間中10時間目

前時 凹部の着色を完成させる。

次時 完成に向けてさらに色を重ねる。

(3) 指導上の留意点

- ・ 示範作品や、4人1組のグループ活動での友とのかかわりの中で、友のよさを感じ取ったり、友からアドバイスをもらったりすることで、制作の見通しが持てるようにする。
- ・ 凹部の色と凸部の色を明度や、彩度の対比、補色関係を意識させることで、彫った部分を引き立たせるような配色を工夫できるようにする。

(4) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導・支援・評価	時
導入	1、自分のあらわしたい「思い」を確認する。	・ 明るい未来になるように、周りに明るい色が広がっているようにしたい。 ・ 明るい色って何色がいいかな。白を混ぜればいいかな。	・ 「思い」をあらわすためにどのような色にしたいか発表する場を設ける。	3
構想	2、ローラーの色の塗り方を工夫して、「思い」に近づける示範を見る。	・ ローラーをつかうのは初めてだからおもしろそうだな。 ・ グラデーションで上の方を明るくしたいな。 ・ 先生の作品みたいに、色を分けることもできるから、2色に分けようかな。	・ ローラーを使った示範を行う。(使い方中心に) ・ ローラーの塗り方のバリエーション見本を提示する。 色の重ね(ローラーor筆) グラデーション * 納得いかなかったら、乾いた後、別の色を重ねることができることを伝える。	10
【学習課題】 配色やローラーの使い方を工夫し、「思い」をあらわそう。				
制作	3、制作	・ 明るい色にしたいけど、下に別の色をぬっておくと引き立つかな。 ・ パステルトーンの色を何色が重ねてみようかな。 ・ 上が明るくなるようにグラデーションに挑戦してみよう。 ・ マスキングをして、色を変えてみよう。 ・ イメージと合わないから、別の色を重ねてみよう。	・ グループの隊形で制作をする。 * 試し彫りの板に試し塗りをしてもよいことを伝える。 * 線の中の色も面の色に合わせて微調整し納得するまで色を重ねる。	32
まとめ	4 友の作品を見て、次への見通しを持つ。	・ もっと濃い色にしないと線が目立たないから濃くしようかな。 ・ 線が目立つように線の色をもう一度塗り重ねようかな。	・ 「思い」に近づいてきた生徒の作品を全体で鑑賞する。 ・ 振り返りの観点を確認し、学習カードに今日のまとめをさせる。	5